甲状腺外科草子 103

古文復習：後拾遺和歌集の女流歌人

杉野　圭三

断捨離中に高校時代の古文試験問題を発見した。八代集についての設問がある(ウム～！)。

① 拾遺集は、はじめから何番目の歌集か？

② 千載集の次の歌集名を記せ

八代集は古今集、後撰集、拾遺集、後拾遺集、金葉集、詞花集、千載集、新古今集である。

以前は、全て岩波文庫で発行されていたが、現在「後撰集」と「千載集」は絶版になり、中古本以外での入手困難となっている。

後拾遺和歌集は白河天皇の勅命により藤原通俊が撰者となり、拾遺和歌集の 80 年後の応徳 3 年（1086）に成立。百人一首には 14 首が採用されたが、余りにも有名な歌ばかりなので、ここでは省略した。

女流歌人が多いのが特徴で、和泉式部 68, 相模 38, 赤染衛門 32, 伊勢大輔 26, 小弁 15, 馬内侍 12 が採用され巻頭歌も小大君である。

1. いかに寝て起くる朝にいふことぞ昨日をこぞと今日をことしと（**小大君**：どのように元旦の朝、寝て起きて昨日を去年、今日を今年と言うのか）

10. み吉野は春のけしきにかすめどもむすぼほれたる雪の下草（**紫式部**：吉野は春景色で霞んでいるが、ここは凍った雪に覆われた下草である）

57. 春はただわが宿にのみ梅咲かばかれにし人も見にときなまし（**和泉式部**：春に私の家だけに梅が咲けば離れた人も見にくるのに）

68. 帰る雁雲居はるかになりぬなれまた来ん秋も遠しと思ふに（**赤染衛門**：帰る雁は雲の果てへ行った、また帰る秋は遠いのに）、歌合わせで、伊勢大輔の「行く空もなくなく帰る雁がねの聞こえぬほどになりにけるかな」と比べられ、赤染衛門の「また来ん秋」の表現が今少し勝ると判定された。

相模

赤染衛門

伊勢大輔

大弐三位

道綱母

高内侍

213. けふも今日あやめもあやめ変わらぬに宿こそありし宿とおぼえね（**伊勢大輔**：今日も去年と同じ五月五日でアヤメも変わらないのに住まいは前と同じと思われない）

214. さみだれの空なつかしく匂ふかな花たち花に風や吹くらん（**相模**）

391. 山の端は名のみなりけり見る人の心にぞ入る冬の夜の月　（**大弐三位**）

825. いつとなく心そらなるわが恋や富士の高嶺にかかる白雲（**相模**）

869. いかがせん山のはにだにとどまらで心の空に出づる月をば（**大納言道綱母**）

蜻蛉日記にも出てくる歌である。山の端にすら留まらないで出ていく月（**藤原兼家**）をどうすれば引きとめることができるのか。

906. ひとり寝る人や知るらん秋の夜をながしとたれか君に告げつる（**高内侍**：**藤原道隆**への皮肉の歌、昨夜は誰と一緒だったの？）

面白い逸話も残る。奏覧本の清書を依頼された藤原伊房（これふさ）は自詠が一首しか採用されないことに立腹し清書しなかったとか、密かに自詠二首を書き入れたとか伝わる。

2024 年の大河ドラマ「**光る君へ**」に登場する紫式部、赤染衛門、兼家、道隆、道綱母、高内侍などの歌も多く、平安貴族の恋や権力闘争に思いを馳せるのも一興かな？

参考資料：菱川師宣画（国立国会図書館蔵）

（　一甲状腺外科医の徒然なる随想　）

2024 年 6 月 7 日